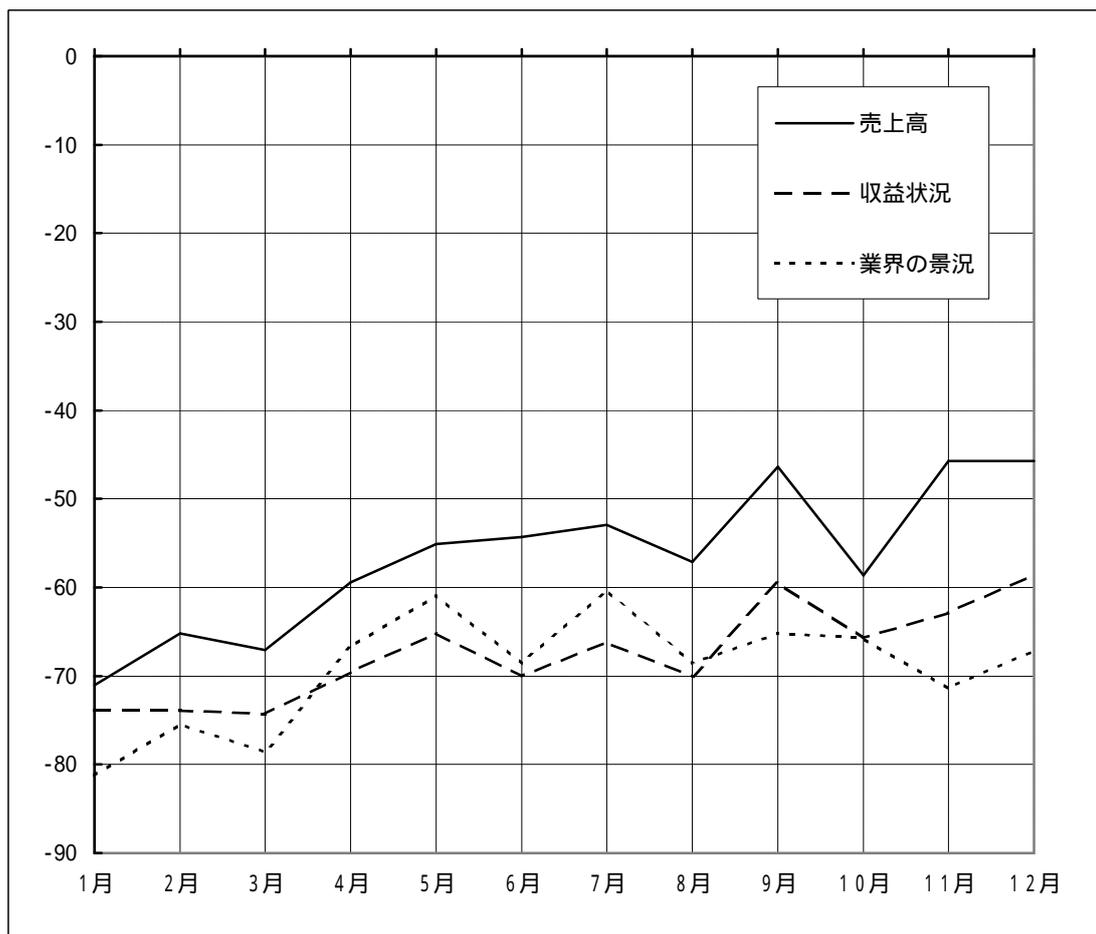


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成14年1月～平成14年12月

単位:ポイント



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7
収益状況	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6
業界の景況	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1

12月のDI値をみると、「収益状況」と「景況」の2項目で改善が見られた。

「景況」は前月より4.3ポイントの改善となり、前月8ヶ月振りに-70%台になった状況を1ヶ月で脱したが、依然-60%台で推移している。また、「収益状況」は4.3ポイントの改善で3ヶ月振りに-50%台に戻したものの、「売上高」は横ばいで推移した。中小企業の業況は一進一退の様相の中、1月より緩やかではあるが全体的に右肩上がり推移してはきているものの、際立った回復感に乏しく、依然として厳しい状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、「鉄鋼・金属」「一般機械」で悪化とする数が減り業種間で少し変動があったものの、相変わらずこの2業種の他に「木材・木製品」で悪化とする割合が高く、また、非製造業では、「商店街」で好転とする数が増えたものの、「サービス業」で悪化が増え、総体的には製造業より景況感が悪く、相変わらず「商店街」を含めた「卸売業」「建設業」「鉱業」で悪化とする割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「一般機器」を含めた製造業では、受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他、需要の減退や不況感に関する報告が急増した。また、「商店街」「卸・小売業」を含めた非製造業では、販売単価の低下や個人消費の低迷による売上げの減少等の他、組合員の廃業や関連事業所の倒産による不況・不安感の報告が見られた。そんな中で、一部の商店街では集客力のアップで好転した報告もされたが、総体的には先行きに対する不透明感を危惧する報告等厳しい環境下にあることが窺える。